

矢作川豊田防災ステーションが15周年を迎えることから、防災ステーションの役割について再認識していただくため、また、大規模水害に対する住民の意識向上のため、矢作川流域5市町村で水防災パネル展を実施。

防災ステーションの役割

「河川防災ステーション」は、水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、資材の搬出入やヘリコプターの離着陸などに必要な作業面積を確保するものです。

Anniversary 15th
豊田防災ステーション

【パネル展 日時・場所】

- 豊田市役所 11月 6日(月)～11月17日(金)
- 岡崎市役所 11月20日(月)～12月 1日(金)
- 安城市役所 12月 4日(月)～12月15日(金)
- 西尾市役所 1月15日(月)～1月26日(金)
- 碧南市役所 1月22日(月)～2月 2日(金)



岡崎市役所でのパネル展示の様子

パネル展においては、防災ステーションの役割の他、九州北部豪雨でのTEC-FORCEの活動も紹介しました。



- 【災害時の活用】
- ①緊急復旧用資材備蓄基地
 - ②災害対策車輛基地
 - ③車輛交換場所
 - ④ヘリポート
 - ⑤洪水時の現地対策本部
 - ⑥水防団の待機場所
 - ⑦水防倉庫
 - ⑧一般住民の避難場所



- 【平常時の活用】
- ①コミュニティスペースとして地域に提供
 - ②水防活動の訓練等に利用
 - ③防災学習施設や川の情報発信拠点として水防センターを活用



矢作川豊田防災ステーション

防災ステーションにおいては、緊急時に備え、災害対策車や備蓄資材、備蓄食料を保管しています。

◀矢作川豊田防災ステーションの紹介パネル(一部抜粋)



早期復旧に向け、全国から延べ約3,400人が被災地に集結。土砂災害により通行不能となった道路や崩壊した斜面、決壊した河川堤防や損壊した護岸など、被害の全容把握のため、全国の地方整備局から災害対応のスペシャリストが集結。TEC-FORCEと呼ばれるこの緊急災害対策派遣隊は、7/31までに延べ約3,400人の職員が派遣され、早期の復旧に向けて被災調査等に鋭意取り組んでいる。